

あ い さ つ

作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部
教職実践センター長 九津見 幸男

作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部に「教職実践センター」が設置されて、6年が経ちました。センターで勉強する学生も年々増加し、学年の枠を超えた学生同士のコミュニケーションも取れ貴重な場になっています。この教職実践センターは、教職を目指す学生が模擬授業の準備や教員採用試験に向けての勉強をする場です。参考図書や教具も増え、教員採用試験の過去の問題集や幼児教育関係の教材、小・中・高等学校・特別支援学校の教科書や指導要領、教具、文房具、心理関係の書籍等豊富な教材を備え、教員を目指す学生たちのサポートを積極的に行っています。

また、宇都宮大学教育学部附属幼・小・中・特別支援学校の公開授業参加、宇都宮市小中教育研究会の公開授業参加、清原地域小・中・高等学校での授業参観をはじめ、学外での活動を積極的に奨励し、大学での授業との融合を図っています。さらに、清原の杜地域体験キャンプ、放課後教室等のボランティアも積極的に推奨し、地域との連携を深めています。

センター内には、学生が自由に使用できるパソコンをはじめ、教員採用試験に向けて電子オルガン。体育館には跳び箱やマット等も用意しており、学生が採用試験に向けて自由に練習できる環境が整っています。

さらに、センターでは毎年「シンポジウム」を開催し、大学内はもちろんですが広く県内の教育関係機関にも情報が提供できるようにしています。内容も特別支援教育関係に焦点を当てて6年目を迎えており、関係機関からご好評をいただいております。

今年度は、地域社会、子ども、家庭等の様々な変化から特別支援教育に関わる課題が複雑化、多様化してきており、学級担任だけが抱えて対応するのでは、十分に解決することができないことが多くなっていることから「チーム学校」として、学校のマネジメント機能を強化し、学校や教員が心理や福祉の専門のスタッフ等と連携・分担する体制「チーム学校」として、通常学級に在籍する子ども達にどのような支援を行うことができるのか実践例を紹介しながら、子どもも教師も過ごしやすい学級づくりや授業づくりについて参加の方々とともに、よりよい方向について考える時間になればと思い企画しました。詳しくはシンポジウム報告をご覧ください。

今回も、多くの先生方からの論文等が寄せられたことは本センターの充実と共に本紀要が大学・女子短期大学部で重視されつつあることであり、今後ますます期待できるものと思います。

最後に、日々の授業や研究等で多忙な中、様々な視点から原稿をお寄せいただいた先生方に感謝を申し上げますとともに、本紀要が教職実践センターとともにますます発展していくことを祈念しています。